



発行所 〒157-0073 東京都世田谷区站 6-26-21 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 定価 100 円(会費を含む) 1998 年 10 月 9 日第三郵便物認可(毎月 3 回 8 の日発行) 2014 年 9 月 24 日発行 SSKU 増刊通巻、第 4927 号

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

どっこい生きてます!



リカバリー・パレード 「回復の祭典」

第5回リカバリー・パレード「回復の祭典」で潮騒 JTC はパレード隊の先導役を担いました。好天の秋空の下、東京・新宿駅周辺の目抜き通りを潮騒 JTC 隊の有志メンバーが先陣をり、すぐあとに入寮者が潮騒旗などを掲げて隊列をつくり、休日のにぎわう沿道から注目を集めました (→4-5 ページ)

2014

9

高齢依存症者の 「老い」をどう生き抜くか



9月15日は敬老の日でした。統計によれば今や日本は4人に1人が65歳以上、8人に1人が75歳以上という超高齢化社会です。私もその部類に入りますが、72歳の自分に「今」があるのは、ダルクで回復し新しい生き方を手にできたからです。日々依存症の仲間たちと出会い、地域の支援者を得ることができ、自分の色合いで施設運営ができることが、人生の励みになっています。刑務所を7回も往復した重症のアル中ヤク中の私が、頑張っ「今を生き続ける」ことは高齢依存症者の手本の一つになると考えています。もちろん私の先達にはダルク創設者の近藤恒夫さんがいますので、私の生きる目標は近藤さんです。こうして命のリレーを継続し、後から来る仲間にはバトンを手渡していきたいのです。

でも、施設にいる高齢の仲間たちの日常は必ずしも前向きとは言えず、このまま“生きる屍”のようになってしまうのだろうか、と危惧します。もっとも社会における同年代の友人たちも歳のせいか覇気がなくなり、どうしたら「老い」を充実したものにするかは社会全体の共通課題です。今の私をワル仲間の旧友たちは「狂っていた頃と同じ人間とはとても思えない」「どうしてそんなに柔和になれるのか。悟りでも開いたのか?」と軽口を叩きます。年相応という考え方もありますが、聖路加国際病院名誉院長の日野原重明先生の例を出すまでもなく「老い」は個別的であり、考え方や構え方一つで変わると私は考えています。

人間老いれば身体も精神機能も少しずつ衰えて、どこかしらおかしくなっていくのは自然な流れです。でも、よほど人生を達観しているならともかく、凡人には素直に自分の「老い」を受け入れがたいものです。むしろ昨今の商業主義的な健康信仰の押しつけやアンチエイジングの礼賛に踊らされ、手放して「若さ」に価値があると思わされていると、「老い」に抗うことに気をとられて肝心な「老い」を生きることを意味を見失いがちです。

「老い」をどう充実させ、残りの人生をどう意義あるものとするか？私は仲間たちにシンプルライフを説いています。もともと依存症者は複雑な思考や行動が苦手です。なので、自然の流れに逆らわずにシンプルに暮らすことがベターだと考えます。自然と触れ合う潮騒農業に参加する高齢者仲間が新たな生きがいを感じている様子を見ると、そのことを強く実感します。やはり人間は自然に同調する存在で、老いればその傾向がより強くなるようです。それだけに私は、老いたら「暮らしは低く志は高く」「余計なものを捨てて自分を身軽に」と訴えています。幸いなことに施設生活の高齢者は、生活保護によって少なくとも飢えることからは免れています。この“恵まれた環境”を当たり前として安住せず、できる範囲で社会への恩返しをしたいものです。

（センター長 栗原 豊）

潮騒 農業

3年連続の豊作を実現、稲刈り／ 今年は順調に生育、青パパイア



潮騒水田のコメづくり、除草作業や 水管理に努め97俵を収穫

私は、自分の問題であるアルコール依存症の克服を目指して潮騒ジョブトレーニングセンターに入寮して4年が経ちます。それまでは長く新潟県のコメどころで稲作農家を営んできた経験があることから、潮騒農業自然隊に加わって水田の管理を任せられ、農業隊メンバーを指導しながら、おいしいコメ作りに励んでいます。就労支援事業として取り組む潮騒農業の稲作は、地域の支援農家の協力もあって年々作付面積を拡大し、ここ数年は豊作が続いて生産量を上げています。今年の天気予想では冷夏という事で大変心配しましたが、天気予報がはずれてホッとしました。

おコメを沢山取るには、毎日、田んぼへ出かけ稲の状態を知る事と、周りを綺麗にすることです。畦が雑草に覆われていては、水が逃げてみずぐには見つかりません。特に田植え後は気を遣います。今年は住宅の庭先の荒れ地も田んぼに復元し、前年度より面積も多くなり青田から黄金色に変わる稲の景色がとてもきれいでした。9月20日に鹿嶋市農業公社からコンバインで刈り取って貰ったおコメの出来は97俵（1俵60kg）となり、3年連続の豊作を実現しました。24日に潮騒JTCの入寮者の皆さんに、潮騒水田で収穫した新米のご飯を提供出来た事は、稲作担当のリーダーとして大変嬉しい限りです。地球の異変で作物の作り方が難しく成ってきますが、負けないでやる決意です。（ヒコ）

ファイザープロジェクト 3年目の取り組みに達成感

今年の夏は前半の早い時期に猛暑日が続き、暑さに慣れていない体にはとてもきつく、農作業では一番の重労働ともいえる夏場の除草作業にとっても苦勞しました。それが8月下旬になると一転して天候不順の日が続き、関西では土砂崩れの甚大な被害が発生し、夏野菜の生産にも影響を与えました。幸い鹿嶋地方は大きな台風や大雨などに見舞われることなく、潮騒農場での生産活動は比較的スムーズに行えました。

そして季節はめぐり実りの秋、待望の収穫時期を迎えました。我らがコメ作りのリーダー、ヒコさんの報告にもあるように、潮騒水田のコシヒカリは3年連続で豊作とな

りました。経営規模を拡大した今年の米作りは大成功となり、施設での自家消費がほぼ見えてきました。その稲刈り作業も9月下旬には終わり、農業隊メンバーはホッと一安心しています。

潮騒農場では、これから後半戦の収穫にも大きな期待がかかります。捲土重来を目指すサツマイモと青パパイアが順調に育っています。なかでも昨年の失敗を生かし、今年は97本の苗を定植してリベンジに挑んだ青パパイアは見事に実がなり、このほど初収穫初出荷が出来ました。感無量です。栽培方法などをめぐる仲間たちと口論したり、成長しているか心配で毎日パパイアの様子を見に行ったり、大きく育てとばかり毎月追肥を施したり…の苦勞が報われた感じです。振り返ると、この半年間はとても早かったような気がします。

潮騒農場で収穫するサツマイモや青パパイアは、現在、潮騒JTCが就労支援事業の発展と自前の受け皿として施設整備を急いでいる、一膳めし屋風の定食屋「おらげのかまど」のメニュー食材にも提供する考えです。これらの食材を生かした料理や販売方法なども仲間達と考え合っています。最近では、青パパイア料理を弁当に使い介護施設などに提供している銚田市の「たきもとクリニック」さんの関連事業者の方から青パパイア料理について勉強させてもらったりと、自分たちの取り組みが確実に進んでいる事に自信を持ち、仲間たちのパワーに驚いています。

「農業で依存症から回復?」と最初は不安でしたが、ここきて就労支援プロジェクト3年目の結果が見えてきて、「俺達でも頑張れば何とかなる!!」と大きな達成感を得ています。「それが回復のプロセスなんだ!!」とも思います。まだまだ大変だし、分からない事だらけですが、「愛すべきヤツら（＝仲間）」とともにやっていければ、必ず良い結果がつくっていると信じています。（ヒトシ）



リカバリー・パレード



回復の祭典

潮騒エイサー隊が先頭を担い隊列をリード
～今年もリカバリー・パレード「回復の祭典」に参加

今年で第5回目の「リカバリー・パレード『回復の祭典』～回復の喜びを私たちは歌う～」が9月21日、東京・新宿区で開かれ、約300人が新宿駅周辺の目抜き通りをパレードしました。初回から参加してきた潮騒 JTC は、すっかりパレードには欠かせない団体として認められ、今回初めてパレードを先導したエイサー隊の有志を含む約40人が「潮騒旗」をなびかせながら存在をアピールしました。今年は室内イベントと野外でのパレードの2部構成で取り組まれました。

リカバリー・パレードは各種アディクション(依存症)や心の病、「生きづらさ」を感じている人たちが、それぞれ回復の道を歩いていることを世間にアピールするのが狙いです。当事者やその家族、友人、支援者、賛同者らが回復の喜びを祝おうと2000年から始まりました。「社会の無知・偏見を取り除くのは、私たち回復者自身の責任です!」として、毎年秋に新宿に集い合い、休日でごった返す新宿駅周辺の目抜き通りをパレードし、回復の喜びを自由な表現で示しています。

回復途上にある当事者が臆せずに顔出しすることで、自分自身の回復を世間に胸を張ってアピールする—。

その趣旨に賛同してリカバリー・パレードは回を重ねるごとに地方にも拡大し、広島や北九州でも取り組まれるようになり、今年は仙台でも開かれました。11月には沖縄でも取り組まれる計画です。今回東京会場は秋晴れに恵まれ、屋内イベント後のパレードでは沿道から大きな注目を集めました。潮騒では準備段階から加わり、ロビーでは専用ブースを設けて施設の資料を配りました。

新宿文化センター大ホールを会場に開かれたプログラム第1部の室内イベントでは、佐藤祐二実行委員長の挨拶に続き、潮騒のエイサー隊有志がトップバッターとして演舞しました。引き続きベリーダンスやインド舞踊、バンド演奏、コーラス、手作りミュージカルなどの多彩な舞台がありました。午後2時からはパレードに移り、「潮騒旗」を先頭に潮騒エイサー隊がベリーダンス舞踊グループと交互に先頭を担い、そのすぐ後に潮騒入寮者メンバーの隊列が続きました。

パレードの隊列は、休日で賑わう新宿駅周辺の目抜き通り約4.2キロを歩き、それぞれがスローガンを叫びながら「回復」をアピールしました。東京会場では今回、ダルク関連団体は潮騒だけの参加でした。やや寂しいパレードとなりましたが、継続することに意義があるだけに潮騒は来年も参加する予定です。(勝)

●継続こそ力なり
～リカバリー・パレード参加に意義

潮騒 JTC はリカバリー・パレードに過去5回すべてに参加していますが、初回には沿道の人たちから「キワモノ」を見る視線を感じました。冷たく否定的な感情が伝わった沿道の様子が、今回はあまり感じられませんでした。恒例行事となり、こちら側が沿道の視線に慣れてきたのが大きいと思います。正直なところパレード参加は、得るものは大きいといえます。何より社会で頑張っているのは依存症者だけでないということ。悩み苦しみながら生きている人たちが「回復」の姿を広く世間に訴えるという開催趣旨に、重要な意義を感じます。主催者の苦労や困難は大きいとしても、こうした試みは地道に継続していくことで力となります。

そのため潮騒JTCでは一貫して施設を挙げて協力してきましたが、まだまだ道のりはそれだけに当事者側が積極的に地域に開いていかないと、孤立したままなかなか地域理解や支援の輪は広がりません。自分たちが委縮せずに「回復できる」というメッセージを発し続けることが大事です。当事者らがカミングアウトして、都心の繁華街をパレードするのは気持ちのよい行動です。依存症を巡る閉塞状況を突破する道につながると考えます。(み)

●エイサーは難しいけど大事なプログラムに
ニュースレターを見ている皆さん、こんにちは。東京・新宿で開かれた第5回目のリカバリーパレード「回復の祭典」に、初めて参加したシャンシャンこと依存症のアッキーです。

僕はこの施設に来て約半年が経ちますが、エイサー(琉球太鼓)に出合ったのは昨年10月頃の事です。仲間たちが一生懸命に練習をやり始めているのを見て、興味を持ったのがきっかけです。

その縁から自分も思い切ってエイサーを始めるようになって1カ月と少々経ちましたが、正直エイサーはなかなか難しい太鼓です。でも今は、僕にとっての大事な回復のプログラムの一つになっています。今回初めて舞台に立って緊張しましたが、まあまあ自分なりに上手くできたかな、と思います。

まだ1曲しか叩けませんが、仲間の力を借りて色々な曲を覚えて、これからは別の機会にも皆さんに披露出来るようになりたいと思います。今回の大きなイベントへの参加は、とても良い思い出となりました。僕の中での回復の一つでも有り、またクリーンを続けて行きたいと思います。今回はリカバリーパレードに参加させてもらい、有難うございました。(アッキー)

鹿嶋琉球太鼓

エイサー慰問 in 仙台



サプライズもあった仙台でのエイサー慰問

仙台は僕が幼稚園の頃から育った街です。先頃、母が働いている仙台の老人ホームにエイサーを見せに行ってきた。敬老の日だったので、これも神様からの贈り物と自然に考える僕がいます。普通、親が見ている会場で太鼓を叩いたりするのは、安心して披露出来ると思うのですが、僕の場合、プレッシャーを感じて緊張します。

午前と午後、計4カ所を回るという強行軍でしたが、その4カ所全部で軽くスピーチをしました。1カ所、2カ所とこなしていくと段々慣れてきて、3カ所目以降には落ち着いて話す事が出来たと思います。太鼓の方も、いつもは後ろの列の端っこの方で叩いている事が多いのですが、今回は仙台での披露という事なので僕がセンターを

務めました。間違えたり、掛け声が出せなかったりもありましたが、80点はもらえる出来だったと思います。

最後に回った老人ホームには祖父が入院していると聞かされていたので、会うのを楽しみにしていました。行ってみると、そこにはすごいサプライズが待っていました。なんと、その日は祖父の誕生日だったのです。太鼓を披露した後に「おめでとうございます」と伝えました。だいぶ歳なので僕の事が分かっていたのかは解りませんが、目に涙を浮かべていたように見えたので、喜んでくれたのだと思います。それでは最後に「爺ちゃんありがとう、また来年会おうネ」(エン)



潮騒女性ハウス「るみの家」設立にあたって

平成26年8月31日(日)。今にも雨が降り出しそうな曇り空の日に、潮騒JTC本部施設で女性メンバーによる引っ越し作業が行われました。栗原センター長と私にとって悲願だった、女性専用の依存症回復施設をようやく単独で設立できたのです。思えば結構、長い道のりでした。入寮希望者は圧倒的に多いのに、ダルクでもいまだ女性専用施設は全国に数えるほどです。いくら女性の回復が難しいからとはいえ、「男性が回復できるなら女性だって…」という私の熱い思いは日々募るばかりでした。

実は潮騒では今から3年9か月前に試行的に女性の仲間を受け入れ、少人数での取り組みを開始していました。でも、実際はプログラムもスタッフも男性の仲間に手伝ってもらっていました。それでも「特に問題はないか…」と考えていましたが、やはり男と女のする事は一つ！ いつの間にか入寮者同士が恋愛関係になり、プログラムどころではなくなりました。そのための改善策として男性の仲間たちは、ナイトケア施設が“強制移転”となり、可哀そうな日々でした。毎日私は目を光らせて男性たちを威嚇しては警戒心を強く、「か弱い子羊」の女性たちを守っていたつもりでしたが、男性より女性の方がしたたかに問題を起こしてくれました(笑)。

一般社会からすれば「恋愛ぐらい自由に」と考えがちですが、依存症のリハビリ施設では恋愛は原則禁止です。依存症の世界では健常者のように自由恋愛が成立しにくいのです。それでもなくても依存症者は弱い存在ですから、たやすく相互依存の関係になり、それが原因で間もなくスリップにつながってしまいます。共倒れすることが明らかなのです。特に女性は共依存に陥りやすく、せっかく施設につながったのに簡単に離れてしまいます。そんないたちごっこを経て3年もすると、潮騒でも潜在ニーズを反映して人数が増え、「これは本格的に考え方を変えないといけない…」となりました。私は“ハイヤーパワー”によって本格的な女性ハウス運営の試練が与えられ、同時にそこから私の本当のプログラムが始まりました。

単独の女性ハウス開所です。有難いのは、やっと私のプライベートな生活空間が保障されたことです。それまでは本部施設内の一角を、事務所兼生活スペースに充てざるを得ない状況でした。センター長との共同生活でしたので、今回移った部屋での生活はパラダイス！

世間からすればごく普通の部屋なのですが、おかげ様でとても心地よく生活させていただいています。同じように女性の仲間も、当たり前の事が当たり前に出来る生活プログラムを手に来れて、とても楽しく実践しています。女性の仲間たちが毎日「幸せです」とミーティングで話してくれるのがとても嬉しいです。それだけ今までがひどかったんですネ(笑)。これから落ち着いて来たら、新しいプログラムを取り入れていきたいと思います。

最後に、施設の名前なんですが、あえて付けず呼び方として「るみの家」としました。ご想像にお任せ致しますが、るみの家だから私の好きにしたい様に出来るのです。ウフフ…。それでは皆様どうぞご支援、宜しくお願い致します。

～施設長 栗原ルミ

今月のイベント参加報告

こんなイベントに
参加しました、
というご報告。

沖縄ダルク20周年フォーラムに 栗原センター長らが参加

「Constant Change ～絶えざる変化」をテーマに、沖縄ダルク(森廣樹代表)の開設20周年記念フォーラムが9月20日、那覇市内で開かれ、潮騒 JTC からも栗原センター長やスタッフらが参加して節目を祝いました。

沖縄ダルクといえば、ダルクで一番早く本場のエイサー（琉球太鼓）演奏を施設のプログラムに取り入れた草分けで、潮騒にとっても「鹿嶋エイサー」の手本となるダルクです。今回は、県外のダルク混合メンバーによる和太鼓と沖縄エイサーとのコラボレーション演奏も披露され、参加者もカチャーシーで飛び入り参加するなど、会場が一体となって盛り上がりました。

フォーラムでは日本ダルク・インテグレーションセンター代表の近藤恒夫さんや日本ダルク本部の三浦陽二さん、茨城ダルク代表の岩井喜代仁さんらがスピーチし、ゲストのシンガー、依存症回復者でもあるAKIRAさんのステージが節目のフォーラムに花を添えました。沖縄ダルクをつくった近藤さんは、支援者の助言でエイサーを取り入れた思い出などを語りました。依存症者の回復は地域の支えと受け入れに比例するだけに、20年にわたる地道な歩みで地元を根を張った歴史を感慨深く振り返り、「多くの人に支えられた。20年前に沖縄に上陸してよかった」と結びました。

●地元沖縄だけに

エイサーのパフォーマンスは凄かった

沖縄ダルクのフォーラムには10年間前にも参加したことがあります。今回は二度目のフォーラムとなった訳ですが、今回の多彩なプログラムの中で自分でも一度はエイサーをやった事から（今は体調が悪くやめていますが…）、やはり一番気になっていたのがエイサーのパフォーマンスでした。前回見た時にはかなり力強いエイサーで心がドキドキしたのですが、今回は和太鼓とのコラボのせいか和太鼓に押された感じで少し淋しい感じもしました。

けれども、さすがエイサーの地元、沖縄だけあってバチさばきの腕前やパフォーマンスのレベルは凄いと思いました。もっとたくさん見たかったです。その他、歌あ

り漫才あり、仲間の話では泣かされる部分もありました。皆ないろいろな過去と現在があり、私自身も10年前に比べると多少なりとも回復してきている事に気付かされました。とにかく収穫の多い、体ごと楽しめた記念フォーラムでした。（タツヤ）



フォーラム前におきなわ観光もしました。



沖縄ダルクのエイサー太鼓演奏



ダルク設立者の近藤さん、潮騒センター長、横浜ダルクのトムさん。

日光ギャザリングに参加して

NAはまなすグループの一員として9月13日～14日、日光ギャザリングに参加しました。朝いつもより少し早くハウスを出発、高速で目指す先は栃木県日光市です。窓に映る緑がどんどん濃くなり深い森の中、日光霜降キャンプ場に到着。当日早朝に仲間が用意してくれた弁当を食べ（唐揚げ・アジフライ・タルタルソース・おにぎりetc）、とても美味しかったです。その後小雨が降り出す中、栃木ダルクの和太鼓でオープニング。1泊2日の予定(日程)です。NAはまなすグループは環境美化係をサービスさせて貰いました。当日、昼の弁当のゴミを回収するという事で、かなりの混雑を予想していたのですが、仲間全体(NA北関東)と、とてもお行儀良く、作業はとても楽でした。

夕食のカレー作りに我々の仲間が調理で参加、とても美味しいカレーを食べた後、皆で温泉へ。キャンプ場に帰り就寝前、誰となくミーティングBOOKを取り出し、突発的 NA ミーティングが始まりました。テーマも内容もとても良く、静かな場所で良いミーティングでした。

翌朝、キャンプ場の軽トラックを借りて、仲間皆でゴミの回収、昼オープンスピーカー、NAはまなすグループから一人の仲間が話しました。良かったです。その後ビンゴ大会で盛り上がり、エンディング。最後にゴミの回収、各部屋の掃除、掃除に始まり掃除に終わったギャザリングでした。あっという間の1泊2日、とても良い経験思い出になりました。ありがとうございました。（ベニー）



今回 NA はまなすグループは環境美化係を担当しました

潮騒アディクションセミナー

●外部メッセージにアル中の自覚を深める

8月の最後の日曜日に潮騒アディクションセミナーが開かれ、施設運営の支援者として潮騒JTCにとっては不可欠な存在の“けいいちろうさん”（アルコール依存症の回復者）を含め、AA・GAのメンバーがメッセージを運んで来てくれました。当日は下津の施設本部で食事当番も重なり、どうなることかとも思いましたが、仲間の協力のお陰で無事に参加出来ました。感謝です。

今回は上旬に館山グループのフェローシップにも参加させていただいて、自分の足下を見つけるチャンスももらえました。それは施設に繋がって、人として接してもらえたことが自分にとって嬉しかったことでした。自分なりに消化して実践出来ればと思っても、なかなか行動が伴わずにいますが、このメッセージの中で、仲間の話でいろいろなことに僻（ひが）んでしまうという話を聞きながら、自分もアル中なんだと改めて感じました。

半歩ずつでもいい、前を向いて歩いていきたいと思えます。いつかメッセージの仲間の場所へとたどり着けると信じて…。(トム)

●“おじいちゃん”に会えてメッセージをもらえた

暫く潮騒アディクションセミナーに参加できず、私にとって久しぶりのセミナーとなりました。休みにもかかわらず、AA や GA の仲間がメッセージを運びに来てくれ、とても感謝しています。私の場合はスポンサーのスポンサー、つまり“おじいちゃん”に会うことが出来てメッセージを聞ける事が嬉しく、またハグするたびに体が熱くなるのが分かります。感情というテーマで始まり、AA の仲間の長年にわたり飲酒が止まらなくなり、何事からも逃げる為にまた飲酒を繰り返し、入院の日々、苦痛の叫び、GAの仲間の借金問題、2社、3社と金を借りては、ギャンブルをして返済するのに、また次の金融から借りる、ついには底をつき何もかも失い、自殺の選択を余儀なくされる…。私も同様の経験があり、共感すると同時に辛くなりました。でも今はこうしてメッセージする側、聴く側にいる事がとても素晴らしいと信じています。最後に“おじいちゃん”が「人生笑って楽しく過ごす事が最高の回復」と話していた事が強く心に残りました。(ツカ)

受刑者からの手紙

一緒に回復して行く仲間の存在が大きいことを学ぶ

私は覚せい剤事犯により、4度目の受刑生活を送っています。初めて逮捕された22歳の時から34歳になった今まで入所を繰り返し、その12年間のほとんどの時間を刑務所内で過ごして来て、心底後悔している所です。今回も刑務所を出てから約半年で入所することになり、覚せい剤使用の罪で2年10カ月という、重い判決を受けました。裁判でも、薬物依存症であることを指摘され、私自身も認めています。逮捕される度に「もう手を出さないぞ!」と心に決めて出所するのですが、その想いも虚しく現在に至っております。もうやめたい、やりたくないという想いは強くありますが、こう何度も繰り返してしまいますと、正直自信がなく、不安が募るばかりです。

地元を出て色々な地を転々としたのですが、何処に行ったとしても、私自身の気持ち次第なのだと思います。ですが、そう言っても一人になると不安でたまりません。薬物依存症から回復するためには一人では難しいと聞きます。一緒に回復して行く仲間の存在が大きいと学びました。私自身も今ではそう思います。でも、こういう悩みは親にも友人にも相談しにくいものです。そこで今回、誠に申し訳ないと思いながらも栗原さんに相談の手紙を書きました。

堀の中の生活では色々なことを考えます。考え過ぎてしまう程の時間が与えられます。これからどう生きるべきか、自分をどう変えて行くべきか。今後のことは勿論、それ以上に後悔の念も湧き上がります。歌手のアスカも捕まり、危険ドラッグも今世間を騒がせています。今回の件で相談できる機関や人がもっと身近になれば、依存症に苦しむ人が減って行くのではないかと思うところなのですが…。私も今回を最後に薬物依存から回復したいと心の底から思います。もう一度一からやり直したいと強く思います。

実家には72歳になる母が一人私を待ってくれているので、出所後は故郷に戻りたいと考えています。そうなった時に栗原さんのような存在が私の助けになるのでは、と今は信じています。地元に戻った際、母の生活もあるので神栖や鹿嶋の方で働くこととなると思います。思い通りに行かないことも沢山あると思います。ストレスを感じてしまうことも多くあると思います。そんな時に相談に乗っていただいたり、手を差し伸べていただいたり、そんな関係を保てたらと思っております。私自身も回復に向かって精一杯の努力をして行こうと思います。身近に相談出来る人が居るというのは、私にとってとても心強く思います。

お陰様で刑期も残り1年3カ月となりました。残りの刑期生活の中でまた色々なことを考え、色々なことで悩んだり迷ったりを繰り返すと思いますが、そんな時には栗原さんに手紙で相談したいと思いますので、読んでいただけたら嬉しく思います。また、出所後は栗原さんとセンターとのつながりを保つために、私も色々な活動に参加出来たらと思っております。本当はセンターの方に入所した方が良いのだと思いますが、今は母も高齢のため、何とか通所の道があればと考えております。

先日あるテレビの番組で栗原さんのお姿を拝見いたしました。色々な活動を催しているそうで、大変忙しいのだと思います。私もそういった活動に皆さんと一緒に参加しながら、回復の道を歩みたいです。

(北海道 S・T)

夏祭りでの俳句「夏祭りゆかたにウチワ下駄の音」

ハガキが届きました。ありがとうございます。今回の服役は3年半です。今後、刑務所に「どっこい…」の冊子が届くのをとても楽しみにしています。夏祭りでの俳句は「夏祭り／ゆかたにウチワ／ゲタ（下駄）の音」です。刑務所の行き先とすると、地方を選ぶのかもしれませんが。それに先にあるのは仮釈か満期ですが、安定さを考慮すれば、これがいまいかな、と思えるのはいくつかありますけど、近場でもよいと考えられます。近県を思い浮かべると、茨城の笠間とかに刑務所があると良いのかなあとも思います。とりあえず、俳句を送ります。

(東京都 J・T)

まだまだ回復実績が少ないこともあって各地の先輩ダルクが実施している刑務所メッセージは実現していませんが、潮騒JTCの特徴ある活動に受刑者との積極的なコミュニケーションを図る文通があります。他のダルクでも行われているかもしれませんが、センター長の私や担当者が頂いた手紙には必ず目を通しています。文章のうまい下手にかかわらず受刑者の皆さんの真摯な熱い思いは依存症回復に向けた道程に繋がるものです。堀の中の貴重なメッセージは施設にいる者にとっても自分たちを映す鏡です。(ユタカ)

人は人との出会いで良い方にも悪い方にも変わる

刑務所の中では運動できる時間が決まっているのでそこが少し残念ですが、出所すればある程度自由な時間があるので思う存分体を鍛えたいと思います。小学校低学年からサッカーをやってきたので、できれば鹿島に帰ってフットサルぐらいはやりたいと思います。体力を身につけるにも運動も大事なのですが、それよりも今の自分に必要で大切なことは、毎日のミーティングとプログラムを行うこと。今までの人生の中で経験できなかったことを潮騒の生活の中で養うことが出来ると感じています。

刑務所の中では強制的に薬物から離れることができます。でもそれは、完全にやめた、回復できた、とは全く違います。出所して潮騒での生活がスタートなので、潮騒の仲間達や栗原さん、キクさんの話を聞いて、そこで今まで自分に足りなかったものが分かれば、少しは前進すると思います。覚醒剤をやめるのではなく、いかにやめ続けられるかが大事なことだと思います。ダルクや潮騒で長年クリーンを続けてきている人達の存在はきっと自分にもプラスになるはずだと感じています。キクさんのお便りにも書いてありました、「一緒にプログラム等を行って自分を取り戻して欲しい」との言葉を頂いたので、まずはそれに向かって一日一日を無駄にすることなく頑張っていきたいです。

自分がいつ回復できるかは分かりません、長い年月をかけて薬物に対して正面から向かい合っていくこと、そして現在自分が持っている目標の為、前に進むしかありません。潮騒に行ってやることは山積みですが、一つ一つ熟すことで少しでも自分が成長していくような感じがします。同じ角度からじゃなく、違う角度から見れば新しい世界が広がるのじゃないかと思います。その為にも自分が変わらないといけません。人は人との出会いで良い方にも悪い方にも変わることが出来ます。自分にとっては栗原さんとの出会いで、全てが良い方に変るような気がします。この出会いはもう一生来ないかもしれないので大切にしたいと思います。感謝です。身元引受の件ですが、やっと正式に身元引受人が栗原さんに決まりました。長い期間待たせてしまい申し訳ございませんでした。

(神奈川県 K・M)

残りの人生を人間らしく、もう一度家庭を持ちたい

前略、多忙にもかかわらずハガキを貰い、感謝しています。先生が多忙なので返信も大変な事はよく分かっています。色々と大小の用件で、毎日大変だと想像しています。こんな俺でも何か手伝う事が出来ればと思いますが、そんな事より、俺自身がどんな誘惑にも負けない強い意志を持ち、心から薬を断つ事が何より大切な事かは、自分自身が一番よく分かっていますので安心して下さい。俺はまだまだ残りの人生を、きちんと人間らしい生活を送り、もう一度家庭を持とうと思っています。まだまだ夢もあるし、人間として人の役にも立てればと思っています。キクさんからも月に一度はハガキが届くし、本当に励まされています。先生の方こそ、多忙で身体の方を酷使すると思いますので、十分にご自愛ください。先生の息災を毎日祈念しています。

(青森県 Y・T)

過去は変えられないが未来は自分で変えられる

当地も朝晩は涼しく、秋の気配を感じる今日この頃です。受刑生活はまだ続いておりますが、出所まで三カ月ほどになり髪も伸び始め、準備に入っております。運動の時など、刑務所でなまった体を少しでも元に戻そうと走っております。皆様の仲間になれる日が刻一刻と近づいております。仮釈を貰って一日でも早く出所したかったのですが、結局は引き受けも決まらず、満期となってしまいました。満期となっても残りの受刑生活を悔いの残らない様、務め上げたいと思っております。過去は変える事ができないが、未来が自分次第でいくらでも変える事ができる。いい方に変わる様、出所してから一日一日大切に生き、今日一日だけは薬を使わない日を積み重ねて行ければと考えております。

(秋田県 S・M)

しおさい俳壇

9月のお題

蝉

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.11

センター長 栗原 豊

無謀と思われた施設の独立から数年もすると、既に述べたようにアルコール依存症治療で有名な秋元病院(千葉県鎌谷市)からつながるメンバーが増え始め、事業受託の恩恵を得た都内のアルコール問題相談業務を通じて、元ホームレスだったアルコール依存症の仲間たちが少しずつ入寮してきた。こうして施設運営に光が当たり始めた半面で、潮騒の前身施設を巡る外圧や風当たりは依然として強く感じられ、孤立感を深めた。旗揚げした「鹿嶋潮騒ダルク」はダルクの名前を冠しながらも独立の経緯が尾を引いて、一部のダルクからは「栗原のやっている施設はダルクじゃない」「新宿のホームレスを集めた貧困ビジネスで金儲けしているだけ」などの悪評が耳に届いた。

悩んだ末に私は、ダルクの創始者で日本ダルク

代表の近藤恒夫さんに「どうしたらいいですか?」と相談した。すると近藤さんは「ダルクは特定の所有物じゃない。回復者なら誰がやってもいい」「ユタカはそれなりにプログラムをやってきた実績がある」「そんな人間を、私たちの信じる神は見捨てない」と勇気を与えてくれた。そして当時、近藤さんが新たに開所する山梨ダルクで導入する計画だった“ジョブトレーニングセンター構想”が頓挫したこと、「思い切って就労支援のダルクとして、相応しい名前に変えたらいい」と助言してくれた。振り返ると、あの提案を私が受け入れられたのは俳句作りの体験が大きかった。俳句を通して社会に受け入れられたという手ごたえが、新たな船出となった施設運営への大きな後押しになっていた。

(次号につづく)

コバ

昔から蝉は短命だと云われるが、実際は地中の幼虫時代が三から十余年、地上の成虫で二週間くらいらしい。蝉時雨は求愛の鳴声だが僅か半月は哀れで懸命でもある。それを聞きながら人間の世を思うしみじみとした句です。

蝉時雨

命七日を

惜しみなく

特選句

鬼

蝉時雨の盛りの頃は子供達には夏休みの楽しい時でもあるが盆を過ぎるとそろそろ宿題も気になる、親から残りの宿題を急かれる。高学年になると受験勉強に懸命だが小学生には少し可愛そうな思いもある微笑ましい句です。

蝉時雨

急き立てられて

宿題す

特選句

今月の秀逸句

オノ

子供らと
神宮の森
蟬捕りに

我家でも夏には蟬や甲虫捕りに付き合われるが子供には思い出の一つでもある。この神宮は鹿島の森かも、杉木立の奥宮や要石辺りの道を子供と蟬を探して歩くのも楽しく気取りの無い微笑ましい句です。

秀逸句

カツミ

蟬時雨
我は静かに
里の昼

原句は少し変えましたがこれで部屋の中や公園のベンチなどで静かに蟬時雨を聞く景の詠になります。蟬時雨は喧しくもあり、よく聞くと息遣いや声音も違い風趣もあります。

秀逸句

シヨウイチ

仮の地が
終の地となり
蟬時雨

幕末の頃、現山口市泉柳井市の妙円寺の月性和尚の漢詩に、「男兒立志出郷関、中略、人間到處有青山」があり現代も転勤や会社の移転など生地より他郷の生活が多い、蟬時雨を聞きながら郷の事やここを最後の地とも思う切々たる句で、私に「青山と名為さむ神栖野桐の花」があります。

秀逸句



佳作

かつちゃん

夕暮の
涼しさ思ふ
秋の蟬

ヒロ

蟬殻の
主を探して
樹を見あぐ

長吉

夕暮の
枝に一つの
蟬眠る

カート

夕焼けの
郷の名残りの
蟬の声

レイナ

秋の富士
我家で見れば
四角いよ

富士山は三保の松原と共に世界遺産に登録されこの辺りから眺めるのが四季を通じて美しいとされる。その富士山も作者の故郷の家からは四角に見える、何事もそつだが全てが美しくはない、俳諧の面白い句です。

秀逸句

アベ

鹿島宮
入りに奥なる
蟬の声

鹿島神宮は神武天皇の御代に創建され、祭神は武甕槌大神で大国主神との国譲りで名高い。今は奥宮までの杉木立の道を漫ろるながら蟬の声を聞く、秋近くには昼でも蠅などが鳴いて杜の深さに涼しさを思う句です。

秀逸句

どっこい私も生きてます～我が回復記～ 「アディクトのユウです」 No.2

20代に入ると本命である覚醒剤にのめり込むようになり、生活は一変しました。今でこそ若いジャンキーの間では社会問題となっている危険ドラッグ（以前の脱法ハーブや脱法ドラッグ）やMDMAなどがもてはやされていますが、日本においてはシャブやスピードなどと呼ばれる覚醒剤が戦後長く特別な存在として君臨し、ドラッグの代表格でした。

何しろ戦争中は特攻銃や猫目銃として特攻隊員や勤労動員に利用され、戦後はヒロポンとして出回り、長く薬物乱用の歴史を形成してきた“魔法の薬物”です。寝なくても大丈夫という覚醒剤の効果に加え、スーパーマンの様に万能力を得た感覚になっていった僕は、仕事をしながら夜は毎晩のように地元で遊びまわり、寝ないでそのまま仕事、時にはパチンコ、風俗とバタバタした日々を過ごしました。当然ながら顔もコケていき、地元ではシャブ中のレッテルを貼られるようになりました。

そのうちに仕事も徐々に続かなくなり、覚醒剤を買っては使いの生活となってお金が追い付かず、親や友人達、さらにはサラ金などからも借りるだけ借りて、そのまま逃げる生活でした。もはや実家には帰れず、友達から見放され、最後にはどこにも自分の居場所を無くして行きました。それでも薬物使用が止まらず、細々と働きながら、ネットカフェに3年住み続けた事もありました。最終的には薬物がなければ仕事も生活さえ出来ない体と精神状態になり、35才の時に初めて薬物で逮捕された事をきっかけに、施設に行く事を自分で決めました。そこから薬物依存症の回復を目指す、施設でのリハビリ生活が始まりました。（次号に続く）

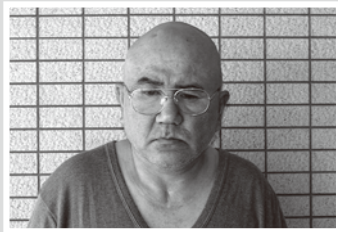
9月のバースデイ

アソウ



長生きします

パゲ



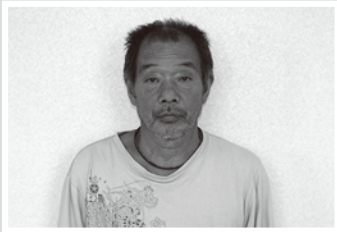
56歳になった！
ゴールまであとひといき

セラ



これからもがんばります

スミ



1年6ヶ月がたちました

トウ



61歳になりました。
健康管理がんばります。

ナカ



もう35歳になっちゃいました

9月の行事予定

- 4日 俳句会
- 13～14日 北関東エリアギャザリング
- 14日 秋元病院メッセージ
- 15～16日 仙台慰問(エイサー)
- 20日 沖縄ダルク20周年フォーラム
- 21日 第5回リカバリーパレード「回復の祭典」
- 25日 映画会
- 27日 仙台ダルクフォーラム
- 26・27・28日 潮騒太鼓合同合宿
- 27・28日 新米祭り(エイサー演舞)
- 28日 家族会
- 29日 誕生会

10月の行事予定

- 2・9日 R.Dプログラム（2期生）
- 4日 てーら祭打ち合わせ
- 9日 俳句会
- 11日 秋田ダルクフォーラム
- 12・18日 秋元病院メッセージ
- 18日 しまナーシングホーム エイサー演舞
- 20日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 25日 さいたまダルクフォーラム

献金を頂いた方（9月15日現在）

渡辺 洋子 様、森 浩子 様、潮騒家族会 様

今月も献金をいただきました。
心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを
実践することができておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、
なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

潮騒通信 どっこい生きてます！ 2014年9月号

Contents

P② 高齢依存症者の「老い」をどう生き抜くか

P③ 3年連続の豊作を実現、稲刈り/
今年は順調に生育、青パパイヤ

P④ リカバリー・パレード「回復の祭典」

P⑥ 鹿嶋琉球太鼓 エイサー慰問 in 仙台

P⑦ 「潮騒女性ハウス設立にあたって」

P⑧ ・沖縄ダルク20周年フォーラムに栗原センター長らが参加
・日光ギャザリングに参加して
・潮騒アディクションセミナー

P⑩ 受刑者からの手紙

P⑫ しおさい俳壇 9月「蟬」

P⑭ どっこい私も生きてます！～我が回復記～「アディクトのユウです」

編集後記

製本作業にミスがあり、潮騒通信の先月号(8月号)の一部に表紙と背表紙(最終ページ)が入れ替わっていました。誤った装丁の先月号をお届けした読者の皆様には改めてお詫び致します。それにしても今月号も編集制作の作業が遅れてしまい、読者の皆さんの手元に届くのは月を越した10月初めになってしまいました。できるだけ発行月の新しい情報を誌面に入れ込みたいの思いから、どうしても作業が月末に集中してしまいます。編集や制作には外部の支援者の協力を得ていますが、なるべく作業は潮騒入寮者の手で行うようにしています。ダルクのモットーである「当事者主義」に則り、パソコンや写真が得意なスタッフらが編集制作メンバーとなって手分けして作業に当たっていますが、あくまで素人ですので各パートの作業時間がかかることが多くなってしまいます。ご承知のように潮騒は他のダルクに比べて大所帯なので入寮者の病院への送迎など、それだけでなくスタッフの多忙化に拍車がかかっています。そうした日常の中でイベント取材や写真撮影、原稿作成、印刷(コピー)作業、郵送業務と慣れない“仕事”ばかりですが、依存症という厄介な病気を持つ人たちが自分たちの能力をフル回転して作業をしています。ですから、結果的に悩ましい事態も生じます。限られた時間の中ですが、みんなで紙面の校正をしているものの、毎月どうしても校正ミスが出てしまうのです。熟読を重ねても、製本後に校正ミスを見つけた時には暗澹たる気分になります。イージーミスであっても“不良品”を届けてしまうわけですから…。そうしたマイナスの気持ちを癒し、前向きなヤル気をもたらすのは読者の皆さんからの忌憚のないご意見、ご感想(もちろんお叱りも含めて)などです。紙面のマンネリ化、独善的に陥りやすい編集方針に反省を加えるためにも、読者の皆さんからの反応を期待しています。(市)



■編集・発行：

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム(中施設)
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>